

第5期雄武町総合計画 前期実施計画書 兼 事務事業事後評価調書

様式1

No. 0901013

政策目標	1	はつらつ・雄武～地域産業の振興～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	1	農業の振興	事業優先度	B		
単位施策	1	土地基盤の充実	政策事務分類	3	単独自治事務(その他)	
事業名	水土里情報システム利活用事業		見直し年度			
事業期間	平成24年度		担当課	9	産業振興課	
事業主体	雄武町		関係課	#N/A		
事業指標	農地の有効利用の促進		関係課	#N/A		
事業目標	農地情報の共有化		ハード/ソフト 事業区分	2	ソフト事業	
住民参加	2		関係例規・法令名			
住民協働			関係個別計画名			

全体計画 事業内容		平成 20 年度 事業内容	平成 21 年度 事業内容	平成 22 年度 事業内容	平成 23 年度 事業内容	平成 24 年度 事業内容
計 画 内 容	◎水土里情報システムの利用					・水土里情報システムの利用
	事業費(千円)	200	0	0	0	200
計 画 事 業 費	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
	一般財源	200				200
実 績 事 業 費	事業費(千円)	200	0	0	0	200
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
	一般財源	200				200
関 連 事 項	(特定財源の詳細等)		(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
		【評価・実績】				
			※前年度評価結果	※前年度評価結果	※前年度評価結果	※前年度評価結果
						農地情報の共有化
	第4期総合計画関連 (継続無し)	年度目標値				
	年度達成率	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	100%
	全体達成率	0%	0%	0%	0%	100%
	事業進捗状況					☆☆☆☆

事業名	水土里情報システム利活用事業	評価者 管理職 職氏名	産業振興課長	石井 弘道
		評価者 作成者 職氏名	産業振興課長補佐	辻 栄 浩 二

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	農業者	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	農地情報の共有化								
【抱える課題やニーズは】	農業就業者の減少や高齢化の進行が見込まれるなか、農村環境の保全と農業の持続的発展を図る必要がある。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値								
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	・農地や農業水利施設等の既存施設を有効に活用	① 農地の有効利用の促進(システム利用)	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>平成24年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>1式</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>1式</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>100.0%</td></tr> </table>	目標年度	平成24年度	目標値	1式	実績値	1式	達成度	100.0%
目標年度	平成24年度										
目標値	1式										
実績値	1式										
達成度	100.0%										
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	・農地情報の提供 ・耕作放棄地増加の抑制 ・水利施設の利用促進や長寿命化	②	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td></td></tr> <tr><td>実績値</td><td></td></tr> <tr><td>達成度</td><td>#DIV/0!%</td></tr> </table>	目標年度	年度	目標値		実績値		達成度	#DIV/0!%
目標年度	年度										
目標値											
実績値											
達成度	#DIV/0!%										
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	水土里情報システムの利活用	水土里情報システムを導入し、利活用を図った。									

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	農地や水利施設等に関する地図及び情報を有効に活用し、農村環境の保全と農業の持続的発展を図るため、必要な事業である。
必要/概ね必要/課題あり	<input type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	農地や農業水利施設等の既存施設の情報を有効に活用することができた。
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
有効/概ね有効/課題あり	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	インターネット上で閲覧するため、新たに機器を揃える必要がなく効率的である。
	<input type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	水土里情報システムの使用料は、各市町村の農地所有面積により負担することになっており、公平であると判断する。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input checked="" type="checkbox"/> 受益者負担がない	
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
	<input type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
農村環境の保全と農業の持続的発展を図る事業であることから、計画のとおり事業を進めることが適当と判断する。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
農地や水利施設等に関する地図及び情報を有効に活用により、施設の長寿命化が図られるので、引き続き最優先して実施すべき事業であり、当分は現状維持が適当である。		

※展開方向の区分
 ○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
 ○終了 ○休止 ○廃止